

# 城山横穴群の時代

# ふるさと福智の歴史をたどる

600

古墳時代

250

250

弥生時代

BC 300 - BC 800

縄文時代



人見古墳群出土の獅噛環柄頭 (九州国立博物館所蔵)

▼伊方古墳は福岡県内でも有数の規模を持つ巨石墳で、発掘調査では金銅装馬具などが確認され、この地域一帯を治めた首長の古墳であると考えられています。▼また、人見古墳群(神崎1号墳)からは獅噛環柄頭という優れた副葬品が出土し、全国的にも類例が少なく貴重な遺物として伝えられています。



墳丘の直径約32m、高さ約5m、前後2室からなる内部の横穴式石室が全長12mを誇る伊方古墳【県指定文化財】

▼古墳時代前期の古墳では迫古墳(弁城)が知られ、神崎遺跡では石棺墓が確認されています。▼城山横穴群は6世紀の前半から造られ、6世紀の終わりごろに伊方古墳が造られました。



▲三本松古墳群(弁城)と▲宝珠遺跡(弁城)から出土の青銅製の鏡で弥生時代から古墳時代の内行花文鏡【町指定文化財】



▲狩獵風景の線刻画が残っている弥生中期の甍片【町指定文化財】



長浦遺跡の縄文土器や金山遺跡の石斧と石鏃(町教委所蔵)

▼私たちの故郷、福智町には古くから人々が生活していた跡が残されています。金山遺跡(伊方)、長浦遺跡(伊方)では縄文時代の遺物や遺構が確認されています。



左上から時計回りに「耳環」「裝飾付器台」「鉄刀片」「はそう」「鉄鏃」。郷土の歴史を物語る貴重な資料が多数発見されました。

「城山横穴群」の中でも最大規模の墳丘から円筒埴輪も出土。下のイメージイラストのように配置されていたと考えられています。



横穴墓とは、斜面や崖などに穴を掘って造られたお墓のこと。

「城山横穴群」では水平方向に3段から5段にわたって造られていることが確認されました。出土品ではハマグリが入ったままの坏(器)も発見されています。(詳細次ページ)



「城山横穴群」で最大規模の墳丘のイメージイラスト

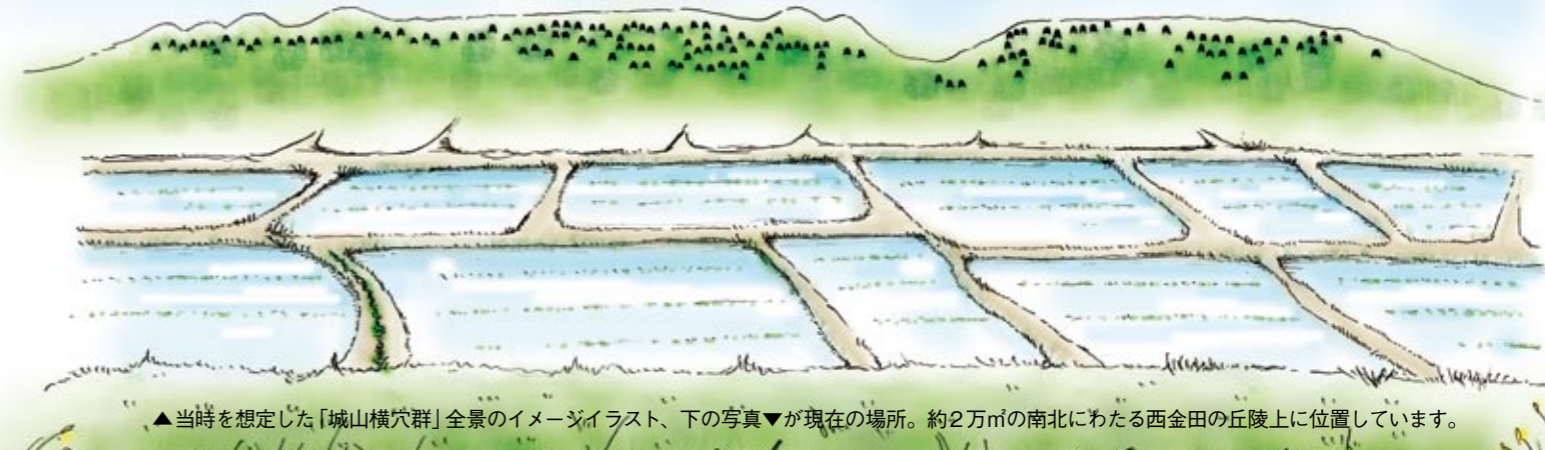
2014年10月6日、文部科学大臣が国史跡に指定。222もの横穴墓と貴重な出土品を確認

## その規模と密集度、全国屈指

いま故郷の歴史をひも解く 巻末特集 国指定史跡

## 城山横穴群

郷土の歴史をたどりながら まちが誇る史跡をご紹介します



▲当時を想定した「城山横穴群」全景のイメージイラスト、下の写真▼が現在の場所。約2万㎡の南北にわたる西金田の丘陵上に位置しています。

▼「城山横穴群」は、近世から金田手永(大庄屋)である六角家の敷地の一角として手付かずのまま残された貴重な史跡。山頂一帯では「城山」の地名にも由来する中世の城郭跡が確認されています。



田川市郡では初、筑豊地域でも四半世紀ぶりとなる国指定の史跡となった「城山横穴群」。遠賀川流域を代表する国内有数の横穴群として注目されています。

▼県内でも横穴墓の集中地帯として知られる遠賀川流域。その中流域にある「城山横穴群」は、6世紀前半〜7世紀前半にわたって造られた史跡です。平成20年から福智町教育委員会が5年にわたって調査し、222の横穴墓と12の墳丘を確認。その数と規模、密集度と出土品が高く評価され、国の文化審議会が新たな史跡に指定するよう文科相へ答申し、平成26年10月の官報で、田川市郡では初となる「国指定史跡」の正式な指定が発表されました。

全国屈指の規模と密集度「城山横穴群の概要」  
222もの横穴墓と  
12の墳丘を確認



▲城山横穴群の全景(赤枠内)北側にあるのが金田小



▼福智町は福岡県の中央部、田川郡の北端にあり、町の北側は福智山系で、南側には県内第2位の一級河川「遠賀川」の支流である「彦山川」と「中元寺川」が合流し、北西へと流れています。「城山横穴群」は「中元寺川」の右岸にあり、標高21m〜39mの丘陵上に位置しています。

先人の営みを物語る遺跡「城山横穴群の位置」  
中元寺川にほど近い  
西金田の城山に残る